

光照院たより

発行：(宗) 光照院
発行日：令和3年10月18日
台東区清川1-8-11
TEL. 03-3872-8487
FAX. 03-3875-5485

ありのままの心を表出できる場

— アジール —

光照院住職 吉水岳彦

光照院が建つ浅草山谷地域は労働者の町として知られる場所で、全国各地から働き口を求めて人がやってきていました。いろんな人が集まるうちに、いつの頃からか「どろぼう市」と呼ばれる市場が立つようになりまし。かつては盗品がたくさん並んでいたのかもしれないが、いまではどこからか拾ってきたものや、廃品類、誰かの遺品、出所不明の怪しい古道具など、雑多なものが早朝の短い時間だけ売られています。使い古された物もあれば、なかには新品同様の物もあって、品物が並べられると、みんな楽しそうに眺めて歩きます。

盗品ばかりの物騒な市場であったならば大問題ですが、どうやらそんなことはないようです。

しかし、子どもの頃は「どろぼう市」という名前の通り、盗品ばかりが並んでいると思っていました。また、まことに残念なことですが、当時はお墓のお供え物をはじめ、お寺の入口にあつたお線香をつけるためのカセットコンロや、庭に置いてあつた鍵付きの自転車まで盗まれることがありました。盗む側は、生きるために仕方なく盗みを働くのかもしれないませんが、盗まれた側はたまったものではありません。しかも、こうした盗難は、一度や二

度ではないのです。物がなくなるたびに、とても悔しい思いをしたのを覚えています。

特に、子どもにとつては宝物でもある自転車が盗まれたときには、悔しくて悔しくて……。街中あちこちを捜し歩いたこともありました。早朝のどろぼう市でも、父に捜してもらいました。でも、結局見つけること

はできなくて、悲しくなつて泣いたことを思い出します。

そうした経験は、同じ地域に住む友人たちにも共通したものでした。ですから、どうやって盗品を取り戻すことができるかを真剣に友人たちと話し合ったこともありました。「お前は知つているか？どろぼう市の品物は、どろぼうが盗んだ物を購入した第三者が販売する品物なので、たとえ盗品であっても、販売者の言い値で



光照院藤棚に安心の家を作った鳩



令和3年に修復した阿弥陀如来尊像

「買い取らねばならないらしいぞ」などと、およそ子どもらしくない会話をしていたことを覚えていきます。いま思うと、それほど盗まれたこととのショックは大きくて、子どもながらに真剣に悩んでいたのでしょう。

大切なものを盗まれると心は大きく動揺します。「自分がぼんやりしていたせいだ……」
「使った後、すぐに片付けておかなかったから

盗まれたのではないかと、後悔するのとともに自分を責めて、とても悲しい気持ちになります。反対に、「普段からうらやましそうにしていたアイツが盗んだんじゃないか」「アイツ、わたしの持っていたものと同じものをもっているな。お前が犯人か？」などと、周囲の人がみんなどろぼうに見えてしまうこともあります。
わたしたちは大切なものを失ったことで心

に悲しみやさびしき、虚しさ、怒り等を感じます。無意識のうちには、そのどうしようもない心苦しさに何とか折り合いをつけようとするのでしようか。その喪失は自分を含む誰かのせいであると考えることで、不安定になっていく心の行き場を定めようとする

「そんなときには、きまって「自分はこんなにもつらい思いをしているのだから、お前らも嫌な思いをしても多少は我慢しろよ」と言わんばかりに、全身から負のオーラを発したり、八つ当たりしてみたりして、周囲を委縮させたり、嫌な思いをさせたりもします。また、事実を確かめよう

と、思いつて疑念を言葉にするので、本当は傷つけないのに、相手を傷つけてしまうこともあり、一方、事実を知るのが怖くて一切の事実を確認しようとし、結局は、望んでいない結果を生じてしまい、自分や他人の気持ちが多

くしていくことが多いうように思います。では、実際に自分の大切なものを失った時にはどうすればよいのでしょうか。大人になると難しいことかもしれませんが、子どもの時のように、まずは大切なものを失って悲しい、つらい、悔しいという気持ちを誰かに聴いてもらったり、胸を借りて泣いたりすることが大事なことです。そうすると、自分が何で悲しいのか、何に怒っているのか、徐々に自分で気づいて

いけるようになっていきます。必ずしも家族や友人でなくてもいいのです。路傍の石仏やお部屋の仏壇、仏画でも、人格を感じられるような安心できる相手、自分の感情をぶつけてもよい安全な場を設けることが大切です。そのように気持ちを聴いてもらえれば、落ち着いてきたときに「あれは八つ当たりだったかもしれない」等と、自分が周囲の人を嫌な気持ちにさせたことに気づくこともできます。悲しいことがあったにせよ、自分が他人を傷つけたと気づいたときには、子どものように「ごめんなさい」と、素直にあやまるのが大切なのです。

関係性を自分から修復してゆくことには勇気がいられます。だから、

自分からあやまることは難しいことかもしれないが、とても大事なことです。人によって傷つけられた心が、再び平安さを取り戻してゆくにも、人と人とのつながりは欠かせません。一度は人と接することが嫌になる期間があったとしても、本当の断絶にはならないようにしておくことも大切でしょう。

自転車を盗まれたわたしは、悔しくてどうしようもない気持ちを抑えきれずに泣きました。誰にも見られたくないので、お寺の本堂で泣きました。あのとき、一緒になつて捜しまわつてくれた父と、泣いている自分を静かに見守つてくれた本尊様がいてくれたからこそ、わたしは誰かを恨み続けず、さっぱりと気持ちを入れ替えることができましたように思います。大人にな

ると見つけにくい、安心な相手と安全な場所。何気ない日常の中に、自分のありのままの心を表出できる場—アジール—をみつけておくことが、不条理なことが多い現実を生きやすくしてくれるのだと思います。

まだまだ道のりは遠いかもしれませんが、浅草山谷の光照院が、みなさまにとつてのアジールになるように、先代住職や弟子達、寺族やボランティアたちと一緒に精進してまいります。

南無阿弥陀佛
合掌

光照院行事予定

《月例行事》

・第三の土曜日

光照念佛会

・第一と第三の月曜日

ひとさじの会

《年中行事等》

二〇二二年

・一月一日(土)

正月修正会

・一月十八日(火)

初観音

・三月十八〜二十四日

春のお彼岸

・三月十日(木)頃

東京大空襲慰霊法要

・四月八日(金)

花まつり(降誕会)

・六月十二日(日)

施餓鬼会法要

・七月十二〜十五日

お盆(新暦)

・八月十二〜十六日

お盆(旧暦)

・九月二十〜二十六日

秋のお彼岸

・十一月十三日(日)

十夜会法要(来年)

※こちらは予定であり、何らかの理由で変更することもあります。

お十夜会ご案内

《日程》

十一月十四日(日)

十時 法話①

十時半 法要①

十一時半 終了①

十四時 法話②

十四時半 法要②

十五時半 終了②

※法要の出欠と塔婆の申込、ご参詣の人数を同封のハガキにて必ずお知らせください。

※三密を避けるため、法話と法要を二回行います。お越しただけの場合は、どの時間にお越しになるかを同封のハガキにてお知らせください。

※各法要は、およそ二十名までとし、お申込みの先着順で割振らせていただきます。

※放生会は、②のみ行います。

※当日の昼食のご用意はございません。

光照念佛会ご案内

光照院では、毎月お念佛とお写経を行う会を行っております。開催日は、基本的には毎月第三土曜日の十五時から二時間を予定しています。みなさまのお越しをお待ちしております。

《念佛会の流れ》

十五時 茶話会
十五時半 法話
十六時 写経
十六時半 念佛回向
十七時半 終了



駐日ベトナム大使から光照院先代住職へ感謝状
が贈られた（当日は、現住職が代理で受取った）

貧困・子供支援縁御礼

日頃より、生活困窮者や子どもへの支援にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。コロナ禍のことも極楽堂は、無償学習支援や子や親を亡くした方の「フリーフサポート」という、生活に不安や困難を抱えているご家庭

の為の食品や日用品の提供活動などを行っています。檀信徒の皆様からは、お米やお菓子、お浄財などのご寄付をいただくことで、とても助かっております。まだまだコロナ禍で先行きが見えない日々が続きますが、みなさまからのご協力とご応援を力に、活動を継続してまいります。

す。今後もみなさまの変わらぬご理解とご協力を賜れば幸甚です。合掌

ひとさじの会活動

みなさまのご協力のおかげさまで、コロナ禍にも活動が継続できています。しかし、感染拡大防止の観点から、ボランティアの募集はいまだ休止のままです。また、ボランティア再開の折には、改めてご案内をさせていただきます。今後、もよろしくお願い申し上げます。合掌

光照院へのアクセス

台東区循環バス「北めぐりん」「浅草駅」から乗車し、光照院そばの九番「清川一丁目」停留所で降車ください。また、「甲42南千住車庫ゆき」バスご利用の場合は、「浅草松屋前」停留所から乗車し、「東浅草」停留所で降車ください。

在日ベトナム人支援

東京に在日ベトナム人の駆け込み寺「東京大恩寺」を設ける計画が始まり、さっそく先代住職がお浄財を寄進しました。加えて、光照院によるこれまでの支援活動も評価され、駐日ベトナム大使館から感謝状を頂戴しました。コロナ禍で居場所を失う在日ベトナム人達が安心できる場所を得てもらえるように、引き続き応援してまいります。

編集後記

今年は取材を受けることが多く、あらためて寺院や僧侶の役割を問われました。不安の多いコロナ禍、どんな人が来ても心をやすめられるお寺になるよう、檀信徒のみなさまと共に形作っていききたいと願っています（住）

お佛具料ご寄進

爲 寿誓発念信三十三回忌追善菩提 一金参式拾萬圓
施主 故郷 栄一殿